

2013年度 職業能力開発分科会における目標と実績評価について

① ニートの縮減（サポステによるニートの就職等の進路決定者数）について

サポステの支援による就職等進路決定者数は、2013年度の目標 20,000 人に対して、実績は 19,702 人となり、目標を下回る実績となった。

年度目標を下回った主な要因は、新規開設のサポステが 49 箇所と多く、そのうち 11 箇所については、7 月以降の開設となってしまったことや、新規開設のサポステが地域におけるネットワークの構築等、体制整備に時間を要したためと考えられる。

今年度は、サポステ箇所数を昨年度と同数の 160 箇所に維持し、引き続きキャリア・コンサルタント等による専門的な相談支援等を行う。

② ジョブ・カード新規取得者数について

ジョブ・カード新規取得者数は、2013年度の目標 19.7 万人に対して、実績は 20.3 万人となっており、目標を上回る実績となった。

年度目標を上回った主な要因は、企業に対する雇用型訓練に係る指導、ホームページやポスター等による周知、企業向け説明会や企業訪問の実施等により、制度の普及が進んでいるためと考えられる。

今年度は、企業に対する雇用型訓練に係る指導の更なる促進を図るとともに、訓練受講者に限らず一般求職者等に対しても、ジョブ・カードの更なる普及を図る。

③ 公共職業訓練（離職者訓練）の就職率について

公共職業訓練（離職者訓練）の就職率は、2013年度の目標は施設内訓練が 80%、委託訓練が 65%に対して、実績は施設内訓練が 82.5%、委託訓練が 69.7%となっており、目標を上回る実績となった。

年度目標を上回った主な要因は、求人・求職者のニーズに合致した訓練の設定、訓練実施機関・ハローワーク等との連携による就職支援等の取組の推進が有効であったためと考えられる。

今年度は、引き続き求人・求職者のニーズに合致した訓練の設定、訓練実施機関・ハローワーク等との連携による就職支援等の取組を実施する他、「民間教育訓練機関における職業訓練サービスガイドライン」の活用推進等、訓練の質の確保や訓練効果の維持・向上を図る。

④ 求職者支援制度による職業訓練の就職率について

求職者支援制度による職業訓練の就職率は、2013年度の目標は基礎コースが 60%、実践コースが 70%に対して、基礎コースが 82.6%、実践コースが 83.5%であり、基礎コース・

実践コースともに目標を上回る実績となった。

年度目標を上回った主な要因は、就職に資する訓練が設定されるよう、職業訓練実施計画で定めた上限値を上回る申請があった場合は、これまでの就職実績等が高いものから認定することや、ハローワークにおいて訓練受講者ごとに個別に支援計画を作成し、訓練実施機関と緊密な連携を図りつつ、訓練開始前から修了後まで、定期的な来所を求めながら就職支援をすること等、就職率の向上に資する仕組みを構築したことが有効であったためと考えられる。

今年度は、制度の見直しを踏まえ適切に事業を実施するとともに、引き続き、求人・求職者のニーズに合致した訓練の設定、ハローワークとの連携による就職支援、訓練実施機関及び訓練受講者による不正受給防止等の適正実施の確保等の取組を実施する。

⑤ 自己啓発を行っている労働者の割合について

自己啓発を行っている者の割合は、2013年度の目標は正社員が50%、非正社員が25%に対して、実績は正社員が44.3%、非正社員が17.3%となっており、目標を下回る実績となった。

年度目標を下回った主な要因は、「仕事が忙しくて自己啓発の余裕がない」とした労働者が多いことが考えられる。

今年度は、企業による労働者の自己啓発の支援を促進するキャリア形成促進助成金の拡充や、労働者が主体的に能力開発に取り組むことを支援する教育訓練給付制度の推進等、自己啓発を促進する経済的支援策を推進していく。併せて、労働者が適切に自己啓発を行えるよう、キャリア・コンサルタントの養成、キャリア・コンサルティングの体制整備について検討を行う。